



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (11月26~28日)

1. 軽油の密輸出に関する石油省次官の発言 (27日付イラン・ニュース紙)

ゼイガーミー石油省次官は、日量6百万リットルの軽油がイランから密輸出されていることを認めた。イラン通貨リヤルの急落の後、燃料の密輸出が高収益となっていると指摘した。現在1リットルのガソリンまたは軽油は、近隣アラブ諸国において5~6万リヤルの価値で取引されているとしている(注:イランでのガソリンの売価は1リットル=7,000リヤル)。

2. ガス輸出国フォーラム閣僚会議の開催 (27日付ケイハーン・インターナショナル)

ガス輸出国フォーラム(GECF)の加盟国は、イランのロスタム・ガーセミー石油大臣を、同フォーラムの2013年における議長に選出した。赤道ギニアの首都マラボにて26日に行われた会議において、加盟国のエネルギー担当大臣によって、テヘランが次期閣僚会議の開催地として選ばれた。

3. 石油輸出量に関する国会予算委員会委員長の発言 (27日付ケイハーン紙)

イラン国会予算委員会のモガッダム委員長は、来年[イラン暦1392年(2013年3月21日~2014年3月20日)]の原油輸出量は半減し、日量100万バレル程度となるだろうとして、石油依存度を下げる見解を示した。

4. 中国によるイラン産原油の輸入 (27日付イラン紙)

中国税関が発表した統計によると、中国は2012年の10カ月間において、1,770万トン(日量42万4千バレル換算)のイラン産原油を輸入した。中国においてイランは三番目の原油輸出国となっている。中国では新たな製油所が複数完成しており、今後2年間で需要が伸びると見られている。

5. イランとヨルダンとの外交・貿易関係 (27日付イラン・ニュース紙)

イランはヨルダン向けに石油を30年間供給し、その見返りとして旅行者をヨルダンに送るという内容で合意した。ヨルダンのメディアが報じた内容によれば、モスレフザーデ(Dr. Mostafa Mosleh-zadeh)駐ヨルダン・イラン大使は、イランのヨルダンとの外交・貿易関係の促進を望んでいる。しかし、ヨルダン国王は、NAMサミット(2012年8月にテヘランで開催)に欠席している(注:同日付の別紙報道では、モスレフザーデ大使本人が、同報道は誤

った引用であると否定している)。

#### 6. 外国為替レートの上昇 (26日付ドンヤーイエ・エグテサーディー紙)

消費者・生産者支援機構のラフィーエイ (Rafiei) 副総裁は、昨年 [イラン暦 1390 年 (2011 年 3 月 21 日~2012 年 3 月 19 日)] と比べ外国為替レートは 2 倍に上昇しており、合理的かつ現実的なレベルまで段階的に物価上昇すべきであるとした上で、為替レートへの依存度を下げつつ、輸入材料の価格が 50~70% 上昇することは合理的であると述べた。

#### 7. 金融機関への負債額の増加 (26日付ハムシャフリー紙)

イラン中央銀行が発表した、本年 [イラン暦 1391 年 (2012 年 3 月 20 日~2013 年 3 月 20 日)] ホルダード月末 (6 月 20 日) までの金融機関の資産および負債に関する統計によると、政府セクターにおける金融機関への負債額は、昨年 [イラン暦 1390 年 (2011 年 3 月 21 日~2012 年 3 月 19 日)] と比べて 48% 増、非政府セクターは 20% 増となっている。政府の借入額は 450 兆リヤル、政府の下部組織などの借入額は 25 兆リヤルである。

#### 8. 為替センター外のレートを使用した輸入 (28日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

鉱工業・商業省は、2 日前に停止していた為替センター外のレートを使用した輸入について、市場レートを使用する形で開始したと通達した。貿易推進機構次官は、「全ての外国為替レート (公定レート、非参照レート、市場レート) を用いた取引が許可されている。曖昧であった税関による通達はクリアになった」と発言した。